

(別添2)

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別 保育所

第三者評価の判断基準

事業所名（施設名）小諸市立美里保育園

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1 保育内容	(1) 全体的な計画の作成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="margin-bottom: 10px;"><input type="checkbox"/> 1</div> <div style="margin-bottom: 10px;"><input checked="" type="checkbox"/> 2</div> <div style="margin-bottom: 10px;"><input checked="" type="checkbox"/> 3</div> <div style="margin-bottom: 10px;"><input checked="" type="checkbox"/> 4</div> <div style="margin-bottom: 10px;"><input type="checkbox"/> 5</div> </div>	1 全体的な計画は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて作成している。 2 全体的な計画は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて作成している。 3 全体的な計画は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して作成している。 4 全体的な計画は、保育に関わる職員が参画して作成している。 5 全体的な計画は、定期的に評価を行い、次の作成に生かしている。	○全体的計画は小諸市の保育理念を基に自園に即し子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して作成しています。期や行事の後、年度末には見直し評価、反省しています。新年度には前年度の美里保育園の全体的計画の反省や評価を基に新たに見直し、必要などときには職員にも相談しながら、園長・主任が参画して作成しています。 ○全体的な保育計画は保育の根幹ですので、様々な勤務形態の職員がいる中でも計画に参加したり、計画の全容を周知できるように体制づくりが望まれます。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 <input checked="" type="checkbox"/> 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 <input type="checkbox"/> 9 内装等には、木材を利用している。 <input checked="" type="checkbox"/> 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 <input type="checkbox"/> 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。 	<p>○子ども達が心地よく過ごせるように室温、湿度、換気、採光、音などの環境を保育士がそれぞれに設定しています。園舎は古いけれどエアコンやストーブ、遊戯室は加えて大型扇風機も使用しています。各クラスとも、ロッカーの位置や机の配置など工夫して、子どもが活動しやすいようにしています。未満児室は畳や絨毯を用意し、ゴロゴロしたり、絵本を読んだり自分の好きな遊びをしたりとくつろいだりできるようになっています。延長の部屋や遊戯室をクールダウンの場所として使い、一人ひとりに合った落ち着ける場所を用意しています。</p> <p>○部屋が暗いと感じたり、猛暑のため時期エアコンの効きが悪かったりするようですが、子ども達に負担がないよう子ども育成課とも一緒に考えて工夫していきましょう。また、トイレ等施設は古くなっていきますが、清掃が行き届くように努力しています。引き続き整理整頓、環境整備に努めていきましょう。</p>
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。 <input checked="" type="checkbox"/> 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。 <input checked="" type="checkbox"/> 18 せかす言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。 	<p>○入園時に保護者の家庭状況調査票により家庭との連携を持つ事を大切にしています。送迎時や保育ICTシステムの連絡を通して、子どもの発達と発達過程、家庭環境等を把握、理解するようにしています。</p> <p>○一人ひとりの発達に合った対応を心がけています。視覚支援や具体的な分かりやすい言葉、ジェスチャー、アイコンタクト等工夫して対応をしています。</p> <p>○子ども達の発達状況をよく観察し、徐々に視覚支援を少なくしているクラスもあります。子ども達への言葉かけや対応等、適切に出来るようにチェック表を確認し、気になるような事があるときには、園長、主任が保育士と面談し話し合いの場を設けて改善に向けて努力しています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。 <input checked="" type="checkbox"/> 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるよう工夫している。 <input type="checkbox"/> 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。 	<p>○子ども達の家庭環境や園での生活の様子から発達状況などを把握して、生活に必要な基本的な生活習慣が身につくよう、職員で連携工夫して子どもと関わっています。</p> <p>○感染予防のための手洗いの大切さを伝え、丁寧に洗えるようにしています。</p> <p>○戸外で遊んだ後は室内でゆっくり絵本を見たり室内のおもちゃで遊ぶなど静と動の活動のメリハリをつけるようにしています。</p> <p>○午睡も暗くしすぎないよう室内環境を整えて静かに休めるよう工夫しています。</p> <p>○時間に余裕が無いとき等、子どもへの語り掛けが少なくなってしまうこともあるようです。常に基本的な生活習慣の大切さを伝えることを心がけると身につけやすいでしょう。</p>
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。 <input checked="" type="checkbox"/> 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。 <input checked="" type="checkbox"/> 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。 <input checked="" type="checkbox"/> 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。 <input checked="" type="checkbox"/> 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。 <input checked="" type="checkbox"/> 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。 <input checked="" type="checkbox"/> 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。 <input type="checkbox"/> 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 <input checked="" type="checkbox"/> 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。 	<p>○毎日の体操はクラス毎に整列してするのではなく、職員で話し合っただけ子ども達一人ひとりが好きな場所で自由に体を動かすという約束になっています。その後、マラソンで園庭中を駆け回る事が日課になっています。訪問日は少し寒い日でしたが全園児や職員で戸外で体操をして元気に駆け回っていました。</p> <p>○朝から園庭に出て友だちとの遊びや固定遊具への挑戦する時間の確保もしています。それが子ども達の運動能力の向上に繋がっています。</p> <p>○園庭の好きな場所でそれぞれに遊んでいることで異年齢の関わりも自然に出来ています。</p> <p>○様々な行事によって、友だちと協力しあい意見を出し合ったりして、(御神輿作り、お祭り、運動会、生活発表会等)自分たちで決めた分担で作り上げていく課程を大切にしています。</p> <p>○安全な沢や、広場、神社、ヤギに会える場所へのお散歩や、園庭で木や草花で遊んだり自然にふれあう機会を大切にしています。</p> <p>○地域の高齢者との交流を年長児がしています。コロナ禍で他の年齢は交流を自粛していました。5類になって、これから地域の方々との交流が一層活発になることを期待します。</p> <p>○絵を描いたり自然物を使った制作、運動会後の好きなリズムを異年齢で楽しんだり、お楽しみ会が終わった後など自由に表現活動を異年齢で楽しんだりしています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<input type="checkbox"/> 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 <input type="checkbox"/> 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 36 子どもの表情を大切に、応答的な関わりをしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 <input checked="" type="checkbox"/> 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。	<p>0歳児に適した机や椅子、おもちゃ、絵本、くつろげる場所が工夫されていました。畳だけではなく、マットや絨毯など部屋の所々に配置されていました。また、テントの屋根が出来ていて家の中といったスペースがあり、ゆったりとした空間が広がっていました。かわいい手作りおもちゃもいつでも手に取れる場所にあり、楽しそうなままごとやブロックなどコーナー遊びの棚も整理整頓されて過ごしやすい環境設定になっています。</p> <p>○食事も午睡もゆったりとした中で出ています。生活から遊び、遊びから生活へと個々のペースを大切にしています。</p> <p>○子どもの表情やしぐさにもアイコンタクトをもち、応答的な関わりが持ていましたが、もっといろいろな余裕を持って接していきたいと、職員の人員配置なども含めて個々に反省点や改善点があるようです。</p>
			⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしょうとする気持ちを尊重している。 <input checked="" type="checkbox"/> 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。 <input checked="" type="checkbox"/> 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 44 保育士等が、友だちとの関わりの仲立ちをしている。 <input type="checkbox"/> 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。	<p>○1歳児は0歳児と隣のクラスにありお互いに連携を持ちながら、保育を進めています。一人ひとりの子どもをよく見て観察し年齢や発達状況を見きわめて、コーナー遊びができるようにしたり、落ちつけるコーナーを作ったり、あったかみのある楽しそうな環境設定がされていました。</p> <p>○2歳児はいろいろな個性の園児や保護者がいるので、子どもとの信頼関係はもちろんですが、保護者と信頼関係を築くように声をかけ話をしながら、連携を取るようになっています。保育士ばかりでなく、園長や主任も一緒に保護者と信頼関係が持てるように務めています。</p> <p>○今年度よりIT化されたので、特に事務的な対応だと思われ無いうように気をつけています。また、連絡帳を希望する保護者には、状況に応じて今年度はノートでのやりとりを継続しています。</p> <p>○2歳児は部屋が他の年齢と離れているので、コロナ禍で難しかったけれど、5類になったのでなるべく園庭や園舎の廊下で異年齢の友だちと遊んだり、関わったりしています。</p> <p>○コロナ禍で保育士以外の大人との関わりが無かったようですが、これからは色々な機会を見つけて関わりを持つことができることを願っています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			<p>⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	<p>b)</p>	<p>■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</p> <p>□ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</p> <p>■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</p> <p>■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。</p>	<p>○3歳児は基本的な生活習慣を大切にしながら、楽しい遊びを提供し保育を進めています。19名のクラスに2人担当保育士がいますが、そこに主任もクラスに入るようにして連携し、安心して安全に保育を進めているところです。</p> <p>○4歳児、5歳児は前年度からの連携がスムーズに行われていて、子ども達一人ひとりの育ちや個性がよく把握されています。日々の保育の中で配慮の必要な子どものため、早めの準備や環境作りをしたり、担任同士でサポートしたり連携しながら活動に取り組むことが出来ています。その中でも4歳児は一人担任で余裕が無いようですが、子ども達の集団力を高めることが課題だと日々の保育を頑張る姿がありました。</p>
			<p>⑧ 障がいのある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	<p>b)</p>	<p>□ 51 建物・設備など、障がいに応じた環境整備に配慮している。</p> <p>■ 52 障がいのある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。</p> <p>■ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。</p> <p>■ 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。</p> <p>■ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</p> <p>■ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。</p> <p>□ 57 職員は、障がいのある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。</p> <p>■ 58 保育所の保護者に、障がいのある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。</p>	<p>○障害のある子のため個別計画を作成しています。日中空いている延長保育の部屋や遊戯室をパニックが起きたときのクールダウンのためや眠れない時、個別の対応が必要な時に使っています。どんな子も活動しやすいように視覚支援を取り入れていましたが、園の生活が安定してきたことで様子を見ながら分かりやすい言葉で話をすることで指示が入りやすくなり、カードを使わない場面が多くなっています。</p> <p>○行事前には保護者と担当保育士、主任がどのような参加方法が良いかを話し合う場を設け、行事後には共に成長を喜び合えるようにしています。</p> <p>○クラスの活動は本人もみんなも興味を持てる事をする事で、一緒に過ごせるようにし、同じ空間で過ごすことを大切にしています。また、その時の状況で一緒に活動が難しい時には、一人ひとりのペースで参加できるように個別に対応しています。</p> <p>○近隣の障がい者施設、医療機関、保健師等、必要によっては保護者と共に医療受診に付き添うこともあり、相談したり助言を受けています。</p> <p>○コロナ禍のため職員がそろって研修会に参加することは難しいけれど、関係機関との情報や相談内容は共有出来ています。</p> <p>○心配がある子や、障がいを持つ子の保護者に対して園の情報発信に迷いがあり、なかなか伝えられない時もありますが、信頼関係を構築しながら必要な事は伝えようと努めています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			<p>⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	<p>b)</p>	<p>■ 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。</p> <p>■ 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。</p> <p>■ 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。</p> <p>□ 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。</p> <p>■ 63 子どもの在園時間や生活リズムに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。</p> <p>■ 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。</p> <p>■ 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。</p>	<p>○クラス保育以外の延長保育時間は、子どもの安全を確保し、落ち着いて過ごせるように0・1歳児、2歳児、3歳以上児と3つの部屋に分けて保育しています。</p> <p>○園庭での遊びの時は異年齢の関わりもあり、職員は担当の園児ばかりで無く、楽しく安全に遊べるように見守っています。延長の子ども達が多いので職員で協力し合いながら過ごしています。それでも、全年齢と一緒に遊んでいると見えなかったり、見過ごしてしまうこともあるので、担当職員の人数や立ち位置など工夫が必要になり、日々の確認が大切になってきます。</p> <p>○日中のクラス保育での伝達事項は、必要な事は担当保育士が保護者の帰りを待って対面で伝えたり、電話で伝えたりしています。引き継げる事は延長保育士に伝達をしてもらっています。</p> <p>○配慮を必要とする子が多く、細かなところでの支援も必要なので、穏やかに過ごすためにゆとりがなくなってしまうこともあり、保育士の確保も必要があるときもあるようです。</p>
			<p>⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	<p>b)</p>	<p>■ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。</p> <p>□ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。</p> <p>□ 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。</p> <p>■ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。</p> <p>■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。</p>	<p>○夏に年長児の様子を小学校の担当教諭が見に来る機会を作り、参観の後に意見交換や話し合いを持って一人ひとりの子ども達についてや保育の進め方などを理解してもらえるように努めています。</p> <p>○入学の時期になると、幼保小連絡会議で連絡の機会や交流を持っています。保護者も園児も一日入学などに参加しています。担当保育士、園長、主任が参画して保育所児童保育要録を作成し、小学校との連携をより細やかにしています。</p> <p>○年長児クラスの担当や、経験者は幼保小の連携について十分承知していますが、園全体で連携の内容や情報を共有する機会が設定されることを期待します。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
		(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b)	<input type="checkbox"/> 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 <input checked="" type="checkbox"/> 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 <input type="checkbox"/> 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 <input checked="" type="checkbox"/> 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 <input type="checkbox"/> 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 <input checked="" type="checkbox"/> 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。	<p>○各検診は適切に行なっています。感染症などの病欠については速やかに職員に知らせ、蔓延しないよう配慮しています。</p> <p>○子どもの怪我や体調悪化については担任から報告があった時点で、マニュアルに沿って園長、主任で慎重に判断し、家庭へ連絡したり、必要ならば医療受診をしています。夕方、夜、家庭に連絡を入れたり、早番の保育士とも連携を取るよう心がけ保護者に様子を聞いています。事故報告書は職員全員に周知し、再発防止に努めています。</p> <p>○事故や事件があったときの危機管理マニュアルが策定されていて、職員に周知されています。</p> <p>○既往症や健康状態など入園時に提出する家庭の調べや個人面談で丁寧に聞き取り、保護者と連携するようになっています。一人ひとりの健康状態に関する情報を担当保育士だけではなく、その子に関わる全職員の周知ができることが大切になります。</p> <p>○午睡時は部屋を暗くしないで、寝方、子どもの顔色等よく確認できるようにし、0～1歳児はシズチェックをICTIにより10分ごとに行っています。</p> <p>○乳児突然死症候群については、保護者に対して定期的に必要な情報を提供していくことが望まれます。</p>
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<input checked="" type="checkbox"/> 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。 <input checked="" type="checkbox"/> 81 家庭での生活に生かされ、保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。	<p>○健康診断、歯科検診は適正に行なっています。その結果は記録され、必要な場合は関係職員に周知しています。</p> <p>○歯科衛生士より歯科指導を受けています。その上、年長児は永久歯の奥歯がはえらるころに染め出しの指導を受け、奥歯まできれいに歯が磨けるようになっています。</p> <p>○健康診断、歯科検診の結果は保護者に知らせ、歯科検診については治療証明も添付して、必要な子には医療受診を勧めています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b)	<p>■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</p> <p>■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</p> <p>■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</p> <p>■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。</p> <p>□ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。</p> <p>□ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。</p>	<p>○アレルギーの子については医師の指示書を基に保護者、栄養士、担当保育士、園長で面談を行い、情報共有したり、提供する給食について話し合ったり、それに沿って食物を提供しています。アレルギー代替の副食は出来るだけ同じ色、同じ形状になるよう配慮して提供しています。確認書や個別のトレーを使うなどして誤食が無いように気をつけています。また、アレルギー物質の入らない食材で対応出来る物は全員がそれに変更するなど努力しています。</p> <p>○医師の指示のもと、アレルギーの除去食が軽減され園での除去がなくなった子もいます。</p> <p>○担当クラスにアレルギー疾患の子がなくても、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修会に参加したり、必要な知識や情報を得たり、技術を習得していくことが望まれます。</p>
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<p>■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。</p> <p>■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。</p> <p>■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。</p> <p>■ 91 食器の材質や形などに配慮している。</p> <p>■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。</p> <p>■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。</p> <p>■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。</p> <p>■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。</p>	<p>○保育園の食育計画に合わせて毎月食育の日を設け、食育担当保育士と調理員と一緒にクッキング保育をしたり着ぐるみを着て寸劇をしたり紙芝居を見たりと、子ども達が楽しく食育に興味を持てるようにしています。</p> <p>○子ども達が野菜の絵本に興味を持ち、その絵と同じ保育士のエプロンについている野菜の絵を指さして、「にんじん」「ゴボウ」など名前を言ったり、盛り付けられた野菜を指さし確認したりして食べ、味わって食事の時間を楽しめるようにしています。</p> <p>○どの年齢の子どもも無理なく食べられるように少量盛り付けたり、食べられたという満足感が持てるように一人ひとりに合わせた量を盛り付けるよう工夫しています。</p> <p>○園庭の前に畑があるので、年長児～2歳児まで年齢なりの野菜作りを楽しみ、収穫した野菜を調理してもらい、喜んで食べています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			② 子どもがおいしく安心して食 べることのできる食事を提供 している。	<input type="checkbox"/> 96 <input checked="" type="checkbox"/> 97 <input type="checkbox"/> 98 <input type="checkbox"/> 99 <input checked="" type="checkbox"/> 100 <input checked="" type="checkbox"/> 101 <input type="checkbox"/> 102 <input checked="" type="checkbox"/> 103	一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 季節感のある献立となるよう配慮している。 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。	○食育年間計画に基づき子ども達の食育について年間を通して考えています。 ○0歳児が途中入園したときは保護者と面談し、どのような形状の食事に行っているか聞き取りをして、園の離乳食の提供に活かしています。しかし、入園してきた乳児に実際離乳食を提供してからの変更が難しいようです。健康的で楽しい食生活のため、調理員との連携を密にすることが望まれます ○未満児の子ども達に対応した食事の提供のため、密に連携をしています。給食室から離れた未満児室の担当保育士は連携を取りにくい時もあるようです。日々の様子を口頭でも連絡し合えることも、子どものために大切です。 ○市の栄養士と連携し、季節感のあるメニューを提供しています。 ○調理員がコロナ禍でなかなか園児の喫食状況を見るためにクラスを回る事が出来ないと言うことですが、5類になったので是非、子ども達に声をかけながら、実際に食事をしている姿を見てもらおうと、まずまず調理員の方や調理室を身近に感じ食に興味を持ち食育に繋がっていくでしょう。
	2 子育て 支援	(1) 家庭との 緊密な連 携	① 子どもの生活を充実させるた めに、家庭との連携を行って いる。	<input checked="" type="checkbox"/> 104 <input checked="" type="checkbox"/> 105 <input checked="" type="checkbox"/> 106 <input checked="" type="checkbox"/> 107	連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。	○今年度から連絡帳もICT化されたのでキッズビューによって保護者との連絡は取り合っています。それでも保護者によっては、連絡帳に書いて欲しいというような家庭もあり、連絡ノートを使用している家もあります。ICT化により冷たく感じたり、誤解を受けたりしないよう、大切なことは対面で話すようにしています。子どもの送迎の時に都合のつく限り、園の様子を伝えたり家庭の様子を聞いたりして連携しています。 ○夏祭り、運動会、楽しみ会など行事ばかりではなく、日々の生活の中で成長を感じたときは、保護者と子どもの成長を共有し喜び合っています。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 <input type="checkbox"/> 112 相談内容を適切に記録している。 <input checked="" type="checkbox"/> 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。 	<p>○日々の送迎の時に対面で保護者と話をしたり、保育園ICTシステムにより連絡を取り合い信頼関係を築くようにしています。保育園での生活の様子も園だよりやクラス便りなどで伝え、安心感を持てるようにしています。</p> <p>○様々な保護者がいる中で、困ったことやトラブルなどがあつたらいつでも話を聞き、それを一人で答えるのではなく、必要な時には主任や園長に相談し解決に向けて対応したり、一緒に考えたりしています。</p> <p>○相談内容を適切に記録し、日時や経過など保存しておくことが大切になります。</p> <p>○保護者の就労時間の変更や、急な時間の変更に対してもその都度、主任、園長に相談し延長保育の職員とも連携し、対応しています。</p>
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 115 虐待等権利侵害の可能性がある職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 <input type="checkbox"/> 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。 	<p>○登園してきた子ども一人ひとりの様子を身体ばかりでなく、行動の変化も見逃さないように観察しています。発育測定の時やプール遊びで着替える時、排泄の介助の時など気をつけて観察しています。虐待の兆候を見逃さないように、特に休み明けなどは注意して保護者や子どもの様子を見るようにしています。</p> <p>○児童相談所や市役所の関係機関と連携をして定期的に連絡を取りあっています。虐待が疑われるようなことがあつたら、素早く対応出来るように保育士、主任や園長との連携も大切にしています。</p> <p>○子ども家庭庁からの保育所等における虐待等の防止及び発生時の対応等に関するガイドラインなどを活用したり、自己チェックの冊子を利用し職員の意識を高めています。県や国主催の研修会等受講して、参加した職員が報告すると職員全体の研修にもなっていくでしょう。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	C)	<p><input checked="" type="checkbox"/> 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り(自己評価)を行っている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/> 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。</p>	<p>○レポート研究では事例をとり、自分の保育を振り返り、職員一人ひとりが保育のあり方について職員間の話し合いの機会にしています。また、保育相談員が訪問指導に来園したときに、保育事案を作成し、保育実践を見ていただき、指導を受け保育の向上に努めています。</p> <p>○職員研修や他の研修会に参加したときは内容や感想、反省を文書にして報告し自分の保育の振り返りをしています。</p> <p>○日々の保育では月毎、週ごと、日ごとに反省をし、期の反省、年度末には指導計画の反省をして、次年度の計画に繋げ、保育が継続するようにしています。</p> <p>○様々な家庭環境の子ども達があり、それと同時に職員の働く形態も様々です。自分の保育を見つめ直し反省することが保育の向上になり、職員集団の働く意欲の向上に繋がります。自己評価をして職員全体で共有し認め合うことで、保育園全体の保育の向上に繋がっていきことが求められます。</p>